

◎ IPを知ろう

- ・ 万博と知財 01
- ・ IPニュース 05
- ・ 「新・知財最前線は今」 06
 - ソウルでMLB開催！模倣品対策や知財に関する啓発活動の取り組みも活発化

◎ 韓国IPGの活動

- ・ 第39回韓国IPGセミナー「韓国における商標最前線 2024」を開催しました 07



韓国IPGへのメンバー登録

韓国IPGへのメンバー登録は下記のURLよりお願いします。
<https://www.jetro.go.jp/world/asia/kr/ip/ipg/>
 韓国IPGは、日本の経済産業省・特許庁の支援により運営されており、会費は無料です。



事務局からのお知らせ

九月とはいえまだ暑さが去りやらぬ毎日ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか？ ジェトロ韓国知財ウェブサイト(<https://www.jetro.go.jp/korea-ip/>)には、最近の韓国知財ニュースや法改正情報、判例解説などを掲載しています。是非ご覧ください。



CAUTION

韓国IPG Informationに掲載されている寄稿・翻訳文等は全て、本紙への掲載について権利者の許諾を得ております。無断での転載はご遠慮ください。



知財トリビア!

現在、韓国特許庁 (KIPO) 本庁舎が所在している都市の名前は？

- ① 大田 (テジョン)
- ② 世宗 (セジョン)
- ③ 仁川 (インチョン)

※ 回答は(2頁)下部に記載しております。

◎ IPを知ろう

万博と知財



公式キャラクター「ミャクミャク」

2024年は運動の祭典とも呼べる、パリ2024オリンピック・パラリンピックが開催され、日本選手も韓国選手も大活躍の大会となりました。時差の関係で寝不足の方も多かったのではないかと思います。2025年には、技術・文化・芸術等の国際イベントとなる、「大阪・関西万博」(EXPO 2025 OSAKA, KANSAI, JAPAN) が開催されます。「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、2025年4月13日から2025年10月13日まで開催される予定です。

「大阪・関西万博」では、公式キャラクターとして

「ミャクミャク」が話題となりました。公式HPの説明によりますと、「細胞と水がひとつになったことで生まれた、ふしぎな生き物。その正体は不明。赤い部分は「細胞」で、分けたり、増えたりする。青い部分は「清い水」で、流れる様に形を変えることができる。なりたい自分を探して、いろんな形に姿を変えているようで、人間をまねた姿が、今の姿。但し、姿を変えすぎて、元の形を忘れてしまうことがある。外に出て、太陽の光をあびることが元気の源。雨の日も大好きで、雨を体に取り込むことが出来る。開幕前から自分のことを皆さんに知ってもらい、2025年に開催される大阪・関西万博で多くの人に会えることを夢見ています。」ということです。デザインは非常にインパクトがあり、PR効果は抜群のようです。

韓国では過去に、2012年麗水(ヨス)国際博覧会(EXPO 2012 YEOSU)が開催されました。さらにその前には、大田(テジョン)国際博覧会(The Taejon International Exposition, Expo'93)が、1993年に開催されています。大田国際博覧会でも、愛される公式キャラクターが生まれました。「クムドリ(곰돌이)」という黄色い宇宙人の男の子です。このキャラクターや名前は、商標権が取得されており、知財管理もしっかりと行われています。

<input type="checkbox"/> [7] (No Title)	Classification Code : 29 30 Application No. : 5020090017655 Registration No. : 4002029120000 Appl. Publ. No. : Vienna Code : 010115 011305 040522 Right holder(current) : Daejeon Tourism Organization	Applicant : TAEJON EXPO PARK CORPORATION Application Date : 2003.12.11 Registration Date : 2010.05.13 Appl. Publ. Date : Agent : Kim Byoung Ik Kang Kyung Chan Byun Chang Kyu
<input type="checkbox"/> [2] 곰돌이	Classification Code : 27 Application No. : 402020223964 Registration No. : 402202630000 Appl. Publ. No. : 4020240031677 Vienna Code : Right holder(current) : Daejeon Tourism Organization	Applicant : Daejeon Tourism Organization Application Date : 2022.12.06 Registration Date : 2024.05.31 Appl. Publ. Date : 2024.02.27 Agent : K2B International Patent AND Law Firm

KIPRISより取得

大田国際博覧会が開催された大田市は、韓国特許庁が所在しています。大田市には、韓国政府合同庁舎も存在し、主要企業の研究所や、KAISTなどの大学も存在しています。技術的な発展を遂げた都市で開催された博覧会という意味合いがあるようです。

さて、ソウル駅からKTXに約1時間乗車すると、大田駅に到着します。テジョン駅には2024年8月現在、「クムドリと大田旅行」というグッズショップ兼観光案内のスペースが設けられています。また大田駅を発着する車両に、クムドリのラッピングが施された列車も存在するようで、PR看板も地下鉄駅に掲載されていました。大田駅から北西の位置に、韓国特許庁もある政府の大田庁舎やエキスポ科学公園が存在します。大田国際博覧会の中心地であったエキスポ科学公園には、その象徴として建築されたハンピッターがあり、その前には現在もクムドリとクムスニの像が設置されています。30年以上経った今でもフォトスポットとして活躍しているようです。このハンピッター前方の川には、エキスポ橋が架かっており、夜にはきれいにライトアップされているようです。エキスポ科学公園に隣接する大手デパートの中には、大田広報館が設けられており、クムドリに関する種々のグッズや、大田観光に関する情報発信の場となっています。路上にもクムドリ一家の説明がおかれていました。また大田駅近くには、クムドリハウスという名前のグッズショップ兼情報発信のお店も存在しています。2024年8月に開催された「2024大田0時祭り」でもクムドリが全面に出て集客の大きな力となっていました。商標権を取得し、更新を続け現在に至るまでそのブランド力を高めた結果、今日の活躍につながっていることがとてもよくわかる事例となっています。



クムドリは、万博のキャラクターとして誕生しましたが、今では大田市のキャラクターとして活躍しており、その知財はしっかりと引き継がれているようです。「大阪・関西万博」で生まれたミyakumyakが今後どのような展開を行うのかも楽しみです。また、韓国特許庁も昨今、大田観光の支援を大田市と共同で行う取り組みを始めました。知財の活用される場の広がりがとても楽しみです。本号次頁に、「大阪・関西万博」の情報を掲載します。是非皆様も「大阪・関西万博」へご参加ください！¹⁶⁶

韓国知財ウェブサイトによる知財情報発信を行っていますので、ぜひご参照ください。

韓国知財ウェブサイトによる知財情報発信

- ・韓国知的財産ニュース (メルマガも月2回発行)
 - ・法律改正情報、政策情報、統計情報
 - ・知財判例データベース (2001年以降の知財判例500件以上について概要や専門家からのアドバイスを蓄積)
 - ・各種調査報告、マニュアル等
- <https://www.jetro.go.jp/korea-ip>



知財トリアの回答

正解は①の大田(テジョン)です。韓国特許庁は、ソウル事務所も存在しますが、本庁舎はソウル駅からKTXで1時間ほどの大田市に位置しています。韓国特許庁は、「大田で買い物・夜観光が楽しめる、宿泊を伴う旅行プラン」をテーマにアイデアを募集するなど、大田地域の観光活性化に向けた取り組みも行っています。詳細は、JETROソウル事務所の知的財産ニュース(2024年7月15日の記事)をご参照ください。



2025年大阪・関西万博

が開催されます



開催概要

大阪・関西万博は、「いのち」をテーマに掲げる万博として、世界が一つの「場」に集う機会となります。本万博を契機として世界の多様な価値観が交流しあい、新たなつながりや創造を促進し、世界的な危機を乗り越え、一人一人のいのちを守り、いのちの在り方、生き方を見つめ直すことで、未来への希望を世界に示す万博となることを目指します。

テーマ

いのち輝く未来社会のデザイン Designing Future Society for Our Lives



サブテーマ

- (1) Saving Lives(いのちを救う)
- (2) Empowering Lives(いのちに力を与える)
- (3) Connecting Lives(いのちをつなぐ)

コンセプト

People's Living Lab(未来社会の実験場)

開催期間

2025年4月13日(日)~10月13日(月) 184日間

開催場所

大阪 夢洲(ゆめしま)



四方を海に囲まれたロケーションを活かし、世界とつながる「海」と「空」が印象強く感じられる会場デザインとします。150の国と25の国際機関、企業やNGO/NPO、市民団体等が、世界中から「いのち輝く未来社会」への取り組みを持ち寄り、SDGsの達成とその先の未来を描き出します。

詳細については、2025年日本国際博覧会協会ウェブサイトをご覧ください





テーマ事業

いのちの輝きプロジェクト

●大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」を形にするため8名のプロデューサーが事業企画を展開します。

いのちを守る

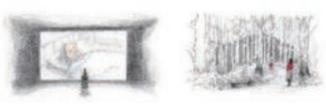
いのちのあかし



© LESLIE KEE

河瀬 直美

映画作家



© Naomi Kawase × 目 [mé]

わたしのなかのあなた、
あなたのなかのわたしに出会う場所

いのちを響か合わせる

Co-being



宮田 裕章

慶應義塾大学教授



© SANAA

Better Co-being

いのちをいむ

EARTH MART



小山 薫堂

放送作家
京都芸術大学副学長



© EARTH MART / EXPO2025

「食」と「いのち」にまつわる当たり前をリセットし
ひとりひとりの行動を変えるヒントにあふれた
＜空想のスーパーマーケット＞

いのちを拡げる

いのちの未来



石黒 浩

大阪大学教授
ATR石黒浩特別研究所客員所長



© FUTURE OF LIFE / EXPO2025

技術と融合することにより、
いのちの可能性を拡げる

いのちを育む

いのちめぐる冒険



河森 正治

アニメーション監督
メカニックデザイナー



© 2022 Shoji Kawamori/Office Shogo Onodera

今、ここに共に生きる奇跡

いのちを高める

いのちの遊び場 クラゲ館



中島 さち子

音楽家、数学研究者
STEAM教育家



STEAM
ワクワク!を探す旅へ

いのちを知る

いのち動的平衡 I am You



福岡 伸一

生物学者
青山学院大学教授



© Dynamic equilibrium of Life / EXPO2025

利己から利他へ

いのちを磨く

null²



落合 陽一

メディアアーティスト



© 2022 WOW inc. All Rights Reserved

デジタルヒューマンという新しい身体の写し鏡、
変形構造体建築による新しい風景の鏡、デジタルと
フィジカル二つの鏡を通じて磨き輝く命の形を示す



未来社会ショーケース事業

●未来社会ショーケース事業は、2025年より先の未来を感じさせる次世代技術・社会システムの実証と、2025年の万博にふさわしい先端技術・社会システムの実装の二つのレイヤーを念頭に実施を検討しています。

スマートモビリティ万博

会場アクセスバス
会場内・外周バス
会場内パーソナルモビリティ
ロボット（会場サービス）
空飛ぶクルマ 等

アート万博

ウォータープラザ水上ショー
大屋根プロジェクションマッピング
静けさの森インスタレーション
パブリックアート
パレード 等

デジタル万博

来場者向けパーソナルエージェント、XR案内
自動翻訳システム
高速大容量通信環境
大型映像、サイネージ 等

グリーン万博

DAC+CCS、メタネーションガス
水素発電、純水素型燃料電池
アンモニア発電
CO2吸収路面素材
次世代太陽電池
帯水層蓄熱 等

バーチャル万博

バーチャル会場
XR演出
サイバー万博（仮称） 等

XR=VR(仮想現実)、AR(拡張現実)、MR(複合現実)など
現実の認識にはたらくかける技術分野の総称

フューチャーライフ万博

未来の都市、住宅、環境、交通、文化
(フューチャーライフパーク)
未来のヘルスケア(健康医療等データ
利活用、医療機器・福祉用具 等)
未来の食、農業
(フードテック、自動化、食文化 等)
未来への行動(Team Expo 2025
ベストプラクティス展示)

※2022年9月7日現在のものであり、今後変更することがあります。



KOREA IP NEWS

※ジェトロ韓国知財ウェブサイト毎日発信している知財ニュースの中から、ピックアップしてお届けします。詳細な記事、その他のニュースについては、ウェブサイト「韓国知的財産ニュース」をご覧ください。
<https://www.jetro.go.jp/world/asia/kr/ip/ipnews/>

① マイクロLED分野の特許登録件数で韓国が世界トップ

| 韓国特許庁 (2024.4.8.)

大型テレビとスマート家電など様々な分野に採用され、次世代ディスプレイとして注目を受けているマイクロLED分野で韓国が特許登録件数世界トップとなり、技術開発をリードしていることがわかった。韓国特許庁がIP5（五庁：日米欧中韓の知的財産庁）に登録されている世界の特許を分析したところ、この10年間（2013年→2022年）マイクロLED関連技術の特許登録件数は2013年540件から2022年には1,045件と約2倍増え、年平均伸び率は7.6%であることがわかった。国別の出願人を見ると、韓国が23.2%（1,567件）と最も多く、2位日本20.1%（1,360件）、3位中国18.0%（1,217件）、4位米国16.0%（1,080件）、5位欧州11.0%（750件）となっている。登録件数で見ると、1位韓国のLGイノテック（6.0%、404件）、2位韓国のサムスン電子（5.7%、384件）、3位日本の半導体エネルギー研究所（SEL）（4.7%、315件）、4位韓国のサムスンディスプレイ（3.6%、240件）、5位中国のBOE（3.3%、223件）となっている。特許庁の半導体製造工程審査課長は「韓国企業がOLEDに次ぎマイクロLED技術においても世界で主導権を握るためには、マイクロLEDチップの製造技術とマイクロLEDの転写工程技術に関わる研究開発を続けることが大事であり、この目標に向けて特許庁は高品質の審査と関連特許情報の提供に引き続き取り組んでいく」と述べた。

② 日中韓首脳、「未来知的財産協力の青写真」を提示

| 韓国特許庁 (2024.5.28.)

韓国特許庁は、5月27日月曜日に開かれた第9回日中韓サミットで、韓国のユン・ソンニョル大統領、岸田文雄首相、中国の李強総理の3か国首脳が「3か国知的財産協力の10年ビジョン」を共同宣言の付属文書に採択し、今後、知的財産分野での協力をさらに強化していくことにしたと発表した。同10年ビジョンには、△人工知能（AI）、モノのインターネット（IoT）など新技術の発展を促進し、受け入れることができる知的財産制度の確立、△大学、研究機関、企業など民間部門による研究開発を効果的に支援し奨励するために、特許情報の定期的な交換や公共のアクセシビリティの向上、△3か国間による協力成果を、ほかの国、または、ASEANなど地域協力機構と共有するための「三か国+X（Trilateral+X）」の推進など、3大の未来協力方向

が盛り込まれている。日中韓3か国は、知的財産分野の強国であり、3か国による特許出願件数は世界全体の約62%（2022年）を占め、知的財産分野での協力は3か国の確固たる協力関係を象徴する代表例として位置付けられている。

③ 韓国特許庁特許審判院、五庁審判部ハイレベル会合を開催

| 韓国特許庁 (2024.6.11.)

韓国特許庁特許審判院は6月11日火曜日、グランドインターコンチネンタルソウルバルナス（ソウル市江南区所在）にて「第5回先進五庁（IP5※）審判部ハイレベル会合」を開き、特許審判における人工知能（AI）の活用や対応策について議論したと発表した。

※ 2007年に創設した韓国、欧州、米国、日本、中国の特許庁の枠組み

今年で5回目を迎える今回の会合には、韓国のパク・ジョンジュ審判院長、米国のMichael KIM特許審判院副院長、欧州のCarl Josefsson特許審判部長、安田太審判部長、中国の高勝華専利復審・無効審判部長などが参加した。会合で各代表団は、①特許審判の動向、政策の方向性および関心事項、②審判デジタル化やAIが審判に与える影響、審判制度の改善策について話し合った。とりわけ、最近、世界的に注目を集めている特許審判の話題である、AIの活用が特許審判に与える影響と特許審判におけるAI活用策の方向性について議論した。

④ 韓国特許庁、先進五大特許庁長官会合を開催 | 韓国特許庁 (2024.6.21.)

韓国特許庁は、韓国、欧州、日本、中国、米国の知的財産庁からなる先進五大特許庁（IP5）と「産業界代表との連席会議」および「先進五大特許庁（IP5）長官会合」を6月19日、20日にフォーシーズンズホテル（ソウル市鐘路区所在）にて開催したと発表した。長官会合で五庁長官は、①知的財産分野における持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）の実現方策、②グローバルな権利移転などユーザーフレンドリーな知的財産システムの構築、③人工知能（AI）など新技術発展への対応策などについて踏み込んだ議論を行った。五庁（IP5）は世界全体の特許出願の約85%を占める知的財産分野のG5である。韓国特許庁は、世界4位規模の特許出願件数に対応する先進的な知的財産機関として、欧州、日本、中国、米国の特許庁と共に2007年に五庁の協力体制を作り、「ユーザーフレンドリーな世界の知的財産エコシステムづくり」をリードしている。韓国のキム・シヒョン長官代行は「2019年の仁川（インチョン）松島（ソンド）での開催以降、5年ぶりに韓国が主催する五庁長官会合がダイナミックな革新都市、ソウルで開かれることとなり大変嬉しく思う」とし、「今回の会合を機に韓国が、持続可能な開発目標の実現と国際調和を図る知的財産制度の発展をリードする先進国家として位置付けられるよう、最善を尽くしていく」と述べた。 

File No.187

ソウルでMLB開催！ 模倣品対策や知財に関する啓発活動 の取り組みも活発化



韓国特許庁の商標特別司法警察（以下、「商標警察」）は3月17日から21日まで、MLB（メジャーリーグベースボール）開幕戦に向け、MLB関係の模倣品対策を行い、開催地である高尺スカイドーム（ソウル市九老区所在）周辺やオンライン上の商品販売サイトにおいても商標権侵害などの観点で、模倣品の取り締まりや啓発活動を行いました。

1. 注目を集めたソウル開催

今回の出場選手である、キム・ハソン選手（サンティアゴ・パドレス）は、試合会場である高尺スカイドームを本拠地とする韓国プロ野球球団のキウム・ヒーローズで活躍した選手です。また、今回の開幕戦は、韓国で初めてのMLB開幕戦という点でも、韓国国内でも大きな注目を集めました。同じく出場選手である、大谷翔平選手（LAドジャース）は、日本や米国のみならず、韓国も含めて世界的に人気の高い野球選手です。MLB開幕戦に先立って、エキシビジョンゲームとして、会場本拠地のキウム・ヒーローズ対サンティアゴ・パドレス、LAドジャース、それぞれの試合と、韓国代表チーム対サンティアゴ・パドレス、LAドジャース、それぞれの試合も開催され、本大会を大いに盛り上げました。このように韓国内をはじめ、世界に向けて注目される試合の情報発信がなされることもあり、模倣品対策についても十分な対策が行われました。

2. 開催前の対応

商標警察は、開幕戦の開催前から、MLB側からの要請もあり、模倣品対策を進めてきました。2月22日には、ソウル市東大門・崇礼門（南大門）周辺の衣類卸売店（7店舗）を集中取締り（2024年2月6日～7日）、MLBの模倣品を販売したA氏など卸売業者7人を商標法違反の疑いで書類送致したと発表しました。商標警察によると、A氏（61歳、男性）など卸売業者は東大門市場（2か所）や南大門市場（5か所）に拠点を置き、MLBの商標などを入れたジャージや靴下などの模倣品を全国に流通した疑いがあるとのことでした。また、この集中取締りの結果、MLBの6のチームの商標（LAドジャース、NYヤンキースなど）が使用された計4万4,341点、真正品価格1億5,000万ウォン（約1,680万円）相当の模倣品を押収したとのことでした。

3. オンラインでのモニタリング

模倣品は、実店舗での販売のみならず、現在ではオンライン上での販売も

行われています。商標警察では、これらの対策として、オンライン上でのモニタリングを強化した結果、数多くの模倣品が流通されていることが確認され、プラットフォーム業者と協力して模倣品販売者の投稿やアカウントを削除（366件）するなどの措置を取ったとのことでした。

オンライン上での発見された模倣品の一例



（3月14日韓国特許庁のプレスリリースより）

4. 試合期間中の対応

韓国特許庁は、試合が開催される期間中も、競技場の最寄り駅とその周辺をパトロールするなど取り締まりを強化したり、知的財産を尊重する文化をつくるPRブースを設置したりという対策も発表しました。

特許庁の産業財産保護協力局長は、「今回のように世界で大きく注目を集めるイベントが国内で開かれると、多くのメディアを通じて韓国の環境・生活・文化などが世界各地に紹介されるが、一部の模倣品流通業者の不法行為のため、韓国の国家ブランド価値が毀損（きそん）されることがないように、模倣品の取り締まりを積極的に続けていく」と述べたということです。

5. まとめ

今回のMLB開幕戦は、国内外から大きな注目を集めるものとなりました。野球ファンが意図せず模倣品の被害に遭うことを防ぎ、また、世界に向けて情報発信されることも念頭に国家としての価値を毀損されないように、韓国特許庁の種々取り組みも行われました。韓国においては、新韓流に関連した世界的なイベントが今後も行われることから、今後もこのような取り組みが推進されますが、消費者側にもより一層の知財マインドが求められます。IPG

日本貿易振興機構（ジェトロ）ソウル事務所 副所長 大塚 裕一（日本国特許庁知財アタッシュ）
2002年日本国特許庁入庁後、特許審査官・審判官として審査・審判実務や管理職務に従事。
また特許庁 総務課・調整課・審判課での課長補佐、英国ケンブリッジ大学 客員研究員、(国) 山口大学大学院技術経営研究科准教授、(独) INPIT知財人材部長等を経て現職。

第39回韓国IPGセミナー 「韓国における商標最前線 2024」を開催しました



開会挨拶風景

会社名や商品名などはブランディングを行ううえでも最重要な要素となります。これらの権利を保護する商標制度は、時代とともに願われる内容も変化し、また商標制度自体も変化しています。新しいところだと、有名商標が付された商品をアップサイクルした場合の権利問題や、日韓ともにいわゆる「コンセント制度」が導入されるなど、時代に応じた変化が多数確認できます。今回、最新の韓国における商標制度を理解する場として、2024年7月26日（韓国・ソウル）、30日（日本・東京）に、第39回韓国IPGセミナー（特許庁委託事業）「韓国における商標最前線 2024」を開催しました。

今回のセミナーでは、韓国特許庁商標デザイン審査局 新産業商標審査課の朴 材苑（パク・ジェウォン）審査官、Lee International IP & Lawの金 玫希（キム・ミンヒ）弁理士、ジェトロ・ソウル事務所の大塚 裕一副所長から、講師として解説を行っていただきました。

開会冒頭、大谷韓国IPGリーダーより、2023年における韓国への商標出願は、25万5千件弱の出願があり、日本への商標出願は、16万4千件であったことから、韓国への商標出願件数が、日本のものよりも9万件も多い状況である点が紹介されました。また、近年ではAIをはじめとする技術革新が大きく進み、ビジネスの態様もこれに伴って変化しており、オンライン上での商標を含む知財制度の在り方や活用動向も非常に関

心が高まっている点についても触れられ、韓国における商標に関する本セミナーの解説に期待いただきたい旨、ご挨拶いただきました。



大谷韓国IPGリーダー挨拶風景

●韓国における最新商標制度

韓国特許庁の朴 材苑（パク・ジェウォン）審査官からは、韓国における最新の商標制度について紹介いただきました。解説の冒頭、韓国特許庁が作成した、韓国における過去の代表的な商標を紹介する動画を用いて、これまでの出願件数の推移や歴史を追ってどのような商標が出願されてきたのか紹介されました。なお、当該動画は下記リンク先にて視聴可能です。https://www.youtube.com/watch?v=lgIUAW22BWA（韓国特許庁（KIPO）作成）
続いて、韓国における商標法改正に関連して、部分拒絶査定制度、再審査請求制度、コンセント制度について、それぞれ詳細が解説され、注意点なども紹介されました。最近の審査動向としては、どのような理由による拒絶が多いのか（33条や34条）の比率や、33条1項各号における比率の紹介も行われました。審査実務における、最後の文字が「S」「X」で終わるものの類否判断や、昨今韓国で社会問題化している「麻葉」という文字を含む商標に

ついて、公序良俗が適用されるか否か等の紹介も行われました。仮想環境における仮想商品についての名称についても解説が行われ、実際の審査実務においては、類似群コードをV(商品)およびVS(サービス)を活用して、審査に役立てている点の紹介も行われました。さらに実際の審査事例を用いて、韓国・米国・日本・欧州・オーストラリアでの識別力判断の相違等も紹介されました。



朴材苑(パク・ジェウォン) 審査官講演風景

●韓国における最近の商標制度活用動向

Lee International IP & Lawの金 玫希(キム・ミンヒ)弁理士より、韓国における最近の商標制度活用動向について紹介いただきました。

最初に、直近5年間で韓国における出願統計が紹介され、コロナ時期に出願が大きく増えたものの、その後はやや落ち着いている点の紹介があり、外国からの韓国への出願は、米国、日本、中国の順で多い点が紹介されました。韓国における商標出願の審査処理期間の推移も紹介がなされ、年々増加傾向にある点が説明されました。この点も踏まえて、優先審査を行う専門部署も設けられた点も紹介があり、優先審査の実際の事例も紹介されました。コンセント制度についても、業界の反応や、どのような事例がこれまでに出来たのかの紹介が行われました。最近の商標動向として、リフォームやアップサイクルされた物品の商標に関する問題の実例が紹介され、かならずしも消尽の原理が及ばず、商標権侵害に該当する場合も存在する点が解説されました。立体商標についても実例の紹介が行われ、これらの権利においても権利侵害の事件が存在しており、それぞれの判断についても解説が行われました。



金 玫希(キム・ミンヒ)弁理士講演風景

●「韓国における最新知財トピックス」

ジェトロ・ソウル事務所の太塚副所長からは、韓国ホストで開催された国際会合が紹介され、特に、日中韓の3か国知的財産協力の10年ビジョンについてや、5庁長官会合における議論の内容等について紹介が行われました。また、統計情報についての解説が行われるとともに、貿易収支においては、著作権の黒字幅上昇に伴い、全体の収支も黒字化している点についての解説が行われました。

●最後に

今回数年ぶりに、韓国の知財情報を韓国のみならず日本においてもセミナーを開催したことは、非常に有意義なものとなりました。オンラインではなくリアルでの情報共有は、理解の程度も違い、また質疑応答も非常に活発に行うことができました。またこのような機会を作れるように次の企画を検討したいと思います。ご参加いただきました皆様、また、ご支援いただきました関係者の皆様、厚く御礼申し上げます。IPG